

令和 4 年 5 月 20 日現在

機関番号：22501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K12353

研究課題名(和文) CLoCMiPレベル 認証前の若手助産師キャリア支援プログラムの開発と検証

研究課題名(英文) Development and verification of a career support program for young midwives before CLoCMiP Level III certification

研究代表者

北川 良子 (KITAGAWA, RYOKO)

千葉県立保健医療大学・健康科学部・准教授

研究者番号：80555342

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的はCLoCMiPレベル の審査を受ける前の助産実践能力習熟途上にある若手助産師のキャリア発達におけるニーズを明らかにし、CLoCMiPレベル 取得前の若手助産師が自らのキャリア発達を主体的に展開できるように支援する「助産師キャリア支援プログラム」の開発と検証が本研究の目的である。CLoCMiPレベル に関するニーズは個人差が非常に大きいこと、またCLoCMiPレベル の取得に関する認識は施設のサポートや身近にいる先輩助産師の状況に左右されること、個人のライフイベントに左右されることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

CLoCMiPレベル の審査に向けて主体的に取り組み、組織の支援を受けている助産師がいる一方で、組織的な取り組みがない助産師がいること、若手助産師がCLoCMiPレベル の条件を満たすために転職を考慮していることが明らかになった。自らのライフイベントを迎える若手助産師が、CLoCMiPレベル の認証を視野にいたったキャリアを支援することは、ライフスタイルに合わせて働く場を移動させることが可能な助産師にとって、移動時の評価が正当に行われることを保証するものとなるともいえる。個人差の大きい若手助産師のキャリアニーズを満たすために支援をすることは、助産師の就業場所の偏在を是正する一助となりうる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the needs of young midwives who are in the process of learning midwifery practice ability before being examined for CLoCMiP Level III, and for young midwives who have not acquired CLoCMiP Level III to take the initiative in their own career development. The purpose of this research is to develop and verify a "midwifery career support program" that supports the development of midwives. Needs for CLoCMiP Level III vary greatly from individual to individual, and awareness of acquisition of CLoCMiP Level III depends on facility support, the situation of nearby senior midwives, and individual life events. Became clear

研究分野：母性看護学 助産学

キーワード：助産師 キャリア発達 CLoCMiP

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 日本看護協会は「助産師の実践能力獲得の停滞」状況を指摘し、その原因として、「産科病棟の混合化」、「マンパワー確保の問題」等の外部環境要因と、「ハイリスク妊産婦のケアを実践しつつ交代制勤務の中で他科の患者のケアを行うことによって、助産師の実践能力の獲得環境が脆弱化している」という内部環境要因をあげた。この状況を改善し、助産師の実践能力を高めるために、日本看護協会は「助産実践能力習熟度段階(クリニカルラダー)」(以下 CLoCMiP)を2013年に公表した。各産科医療機関がこのラダーを採用し、自施設の状況に応じた修正を加えたうえで、その施設に所属する助産師がラダーに応じた助産実践(分娩介助件数100例以上、妊婦健康診査200例、新生児健康診査100例、産褥期健康診査200例以上の経験例数など)、研修(NCPR、CTG、出血時の対応、倫理、学会発表への参加および演題発表等)、課題の達成を通じ、助産師としてのキャリアを達成できるようなシステム構築を推奨した。この中で特に CLoCMiP レベル については、日本看護協会、日本助産師会等の6団体で日本助産実践能力推進協議会を構成し検討を進め、その個人の認証を日本助産評価機構において全国統一で行い、5,562名の助産師が認証された。この CLoCMiP レベル の認証に向けた各施設における取り組みに関する報告は散見されるようになった。
- (2) 日本における出産は、病院と診療所ではほぼ半数ずつ行われているが助産師の就業先は病院65%、診療所20%、助産院5%であり助産師の就業場所の偏在が生じている。これはすなわち、就業する施設によって助産師として必要な実践能力を研鑽するための経験に差が生じると指摘されている。このような偏在や経験の差が生じている状況の中、今後 CLoCMiP レベル に向かう新人期を終えた CLoCMiP レベル ~ にある若手助産師のキャリアに関する報告は皆無であり、どのようなニーズがあるのかは不明であった。今後は CLoCMiP レベル の条件を満たすために転職を考慮しなければならない若手助産師が生じることは容易に予測された。
- (3) CLoCMiP レベル の認証を得ることは、病院から診療所・助産所、診療所・助産所から病院へ、病院から地域そして再度病院・診療所へとその時々ライフスタイルに合わせて働く場を移動させることが可能な助産師にとって、移動時の評価が正当に行われることを保証するものとなるともいえ、施設間を移動しながらキャリアを構築していく助産師にとって朗報である。

2. 研究の目的

- 1) CLoCMiP レベル 認証審査を受ける前の助産実践能力習熟途上にある若手助産師のキャリア発達におけるニーズを明らかにする
- 2) CLoCMiP レベル 取得前の若手助産師が自らのキャリア発達を主体的に展開できるように支援する「助産師キャリア支援プログラム」の開発と検証を行う

3. 研究の方法

- 1) 既存のキャリア支援教育プログラムの現状把握
看護職のみではなく、教育職・心理職なども含めたキャリア支援教育プログラムの現状、既存の教育プログラムの課題に関する術を抽出し類別した。
- 2) CLoCMiP レベル 審査前の若手助産師のキャリア発達に関するニーズの聞き取り調査
 - (1) 対象者
研究者の所属教室のホームページによる募集やネットワークサンプリングを通して、助産師経験2年目以上の CLoCMiP レベル 審査前にある20代の助産師16名とした。
 - (2) 調査内容
助産師経験年数等のデモグラフィックデータ、今までに受けてきた現任教育の内容とその評価、CLoCMiP レベル に関する認識と今後の予定、将来の助産師のキャリア、キャリアを発達させるために行っていること、キャリア発達のために考えていること、受けたいキャリア支援であった。
- 3) CLoCMiP レベル 審査前の若手助産師の現状とキャリア発達のニーズの抽出
 - (1) 対象者
産科を標榜する病院に勤務する助産師経験2年目以上の CLoCMiP レベル 審査前にある20代の助産師
 - (2) 調査内容

データ収集方法：質問紙調査

デモグラフィックデータ

助産師経験年数等，助産実践の状況（分娩介助，妊婦健康診査，新生児健康診査，産褥期健康診査の経験例数），研修の参加状況（NCPR，CTG，出血時の対応，フィジカルアセスメント，助産師および後輩教育，倫理，学術集会への参加および演題発表等）

キャリア発達のニーズ

今までに受けてきた現任教育の内容とその評価，CLoCMiP レベル に関する認識と今後の予定，将来の助産師のキャリア，キャリアを発達させるために行っていること，キャリア発達のために今後行っていきたいこと，受けたいキャリア支援

- 4) 「若手助産師キャリア支援プログラム」の構成要素を抽出
キャリア支援はピアサポートがエンパワメントに有効であるため，「情報提供」「情報交換」「エンパワメント」を主軸となることが想定される。プログラム案の妥当性の検討と修正は，助産学の専門家，キャリア支援に関する専門家から意見を聴取をおこなった。
- 4 . 研究成果
 - 1) キャリア支援はピアサポートがエンパワメントに有効であるため，「情報提供」「情報交換」「エンパワメント」が重要であることが示唆された。
 - 2) CLoCMiP レベル 審査前の若手助産師のキャリア発達に関するニーズの聞き取り調査
CLoCMiP レベル 審査前の若手助産師は，CLoCMiP レベル の審査に向けて主体的に取り組んでいること、取得するために組織の支援を受けていること、CLoCMiP レベル の審査に向けて主体的に取り組んでいるが組織のサポートがないこと、取得していなくても臨床での働き方は変わらないので取得は考えていない助産師がいることが明らかになった。長く助産師として働くために主体的に勉強会や学会に参加するなどのキャリア発達のための取り組みに勤む助産師がいる一方で、キャリア支援を望んでいるが何をすればよいのかわからない、今後の自分のキャリアを考えたいが日々の業務に追われ心身ともに疲弊しその余力がない助産師がいることなどが明らかになった。これらより CLoCMiP レベル に関するニーズは個人差が非常に大きく CLoCMiP レベル の取得に関する認識は施設のサポートや身近にいる先輩助産師の状況に左右されること、個人のライフイベントに左右されることが明らかになった。
 - 3) CLoCMiP レベル 審査前の若手助産師の現状とキャリア発達のニーズの抽出
CLoCMiP レベル の審査に伴い求められる助産師経験年数等，助産実践の状況（分娩介助，妊婦健康診査，新生児健康診査，産褥期健康診査の経験例数），研修の参加状況（NCPR，CTG，出血時の対応，フィジカルアセスメント，助産師および後輩教育，倫理，学術集会への参加および演題発表等）は所属する施設の特徴に大きく左右され，自分の意思で調節することが難しいことが示唆された。
 - 4) 「若手助産師キャリア支援プログラム」の構成要素を抽出
CLoCMiP レベル の審査に求められる助産実践能力の蓄積できる施設への転職支援，CLoCMiP レベル 取得を施設で支援できるシステムの構築、CLoCMiP レベル 取得することで得られるメリット，生涯にわたって就業継続するための心身のセルフマネジメント、助産師がエンパワメントされるようなピアサポートシステムの構築と情報提供の構築が抽出された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------